

教科「農業」

科目名	総合実習	単位数	4 単位
学科名	コミュニティデザイン科里山コース	学 年	2学年
1 学習目標	里山環境で学んだ技術・知識を生かして、より実践的に学ぶ。また、社会人としての態度や資質を養う。		
2 指導の重点	①あいさつ、返事をしっかりする。実習中の服装や態度を正しく ②基本的生活習慣の確立 ③ものづくりを通して、持続可能な地域づくりを目指す ④実習を通じて協力・助け合いの精神を学ぶ		
3、学習内容			
【1学期】	(1) レタリング技能検定資格取得への取り組み • 過去問題トレーニング（知識・技術） (2) 生物多様性（水辺デザイン）→地域連携 • ネイチャーランド里山計画～アイデア～デザイン • 「生きものの里」ホタル再生復活プロジェクトアイデア～デザイン (3) 第2農場を活用したレクリエーションのアイデア（企画）～デザイン （中の原農場でのツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ） (4) 地域資源を有効活用（再活用）した「ものづくり」の試作品製作 「和紙・経木」を活用した日本伝統文化技術の習得とアイデア（試作品）の発信 (5) 里山環境再生プロジェクト活動 • 「ホタル Labo 2020」ホタルと暮らす里山づくりのアイデア提案（地域連携） • 課題テーマとして、ホタルの生態系・水辺環境の調査（外部講師による指導）		
【2学期】	(1) 生物多様性（ホタル・イナゴ、水辺デザイン・）→地域連携・小学校交流 (2) 林産物の再活用の作品製作（アイデア・デザイン～プロトタイプ製作）、 • 学んだ内容をものづくりに発展→各イベント会場での展示会・ワークショップ (3) 自然環境を持続的に保つネイチャーランド計画の実践（外部団体との連携） (4) 森を活用したレクリエーションのアイデアと実践 • ツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ等 (5) 知識・技術の実践としてのアウトプット • 地域交流・地域活性化へ繋げる活動・連携を含めたアイデア・企画の立案		
【3学期】	(1) 森を活用したレクリエーション（日常生活の向上）のアイデア (2) 林産物の有効活用に向けた「ものづくり」の作品アイデア・デザイン (3) 実践報告のまとめ、発表方法の学習 (4) 交流発表会の実施（県内専門科を置く高校とリモートで意見交換）		
教科書	使用無し		

評価基準

評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○		○	20%

副教材	使用なし	
-----	------	--

教科「農業」

実習	◎	○	◎	30%
レポート	◎	○	○	20%
作品製作	○	◎		30%
評価の重点	具体的解決のための取り組みの中で、人との対話や自らの気持ちを分かりやすく伝えようとする姿勢見られるか。			

教科「農業」

科目名	森林科学			単位数	3 単位
学科名	コミュニケーションデザイン科里山コース		学 年	2 学年	予定時数 105
1 学習目標	森林の育成と環境の保全についての体験的・探究的な学習を通して森林及び環境に関する学習について興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と課題解決能力を育成し、森林及び環境管理に関する基礎的な知識と技術を習得させ、各分野で活用する能力と態度を育てる。				
2 指導の重点	①森林の基礎的知識と育成する技術に感心を持たせる ②実習を通じて基本的育成技術を習得させるとともに興味関心を持たせる ③災害を回避する知識と技術を学び関心を持たせる				
3、学習内容					
【1学期】	1 レタリング技能検定資格取得への取り組み ・過去問題トレーニング（知識・技術） 2 森林の役割・機能・特徴（基礎） (1) 森林の多面的機能 ・森林管理の意義 ・持続可能な森林管理、育林技術・役割～課題				
【2学期】	2 森林の生態 (1)森林の生態 ・気候と植生 ・日本の自然環境と植物群系の分布 ・植物群落の遷移 (2)樹木の生育と環境 ・樹木の生育特性 ・樹木の生育に関わる環境因子 3 森林の育成 (1)育苗と造林 ・造林と伐採 ・森林の更新（人口更新、天然更新） ・樹木の育苗、育種 ・造林の実際 (2)森林の保育と保護 ・森林の保育・保護（下刈り～間伐） 4 伐木造材実習 (1)チェーンソーの構造と操作、整備（基礎） (2)伐木造材の理論				
【3学期】	5 森林の育成と活用の実践 (1)森林づくりに関する研究 (2)森林の活用に関する研究 ・森林の活用実習（地域でのワークショップ、木育活動等）				
教科書	森林科学				
副教材					

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	◎		○	30%
実習	○	○	◎	30%

教科「農業」

小 テ ス ト	◎	○	○	40%
---------	---	---	---	-----

科目名	里山環境	単位数	3 単位
学科名	コミュニティデザイン科里山コース	学 年	2学年
1 学習目標			
伊那谷地域の課題を設定し、生徒自ら課題をチャンスと捉え、課題解決に向かってチャレンジし、その解決を図る学習を通して、探究心と実践力を養い、課題解決のための能力や自発的、創造的な学習態度を育てるこことで、学校教育目標でもある伊那谷をデザインし、探究学習を推進させるため。			
2 指導の重点			
伊那谷をフィールドとした里山の果たす役割や未来の里山の在り方、自然環境と人の繋がりを探究的に学ぶことで、生徒が「森林と暮らしとのつながり」をコーディネート（橋渡し）できるスキルと、「ものづくり」を通して、持続可能な地域づくりについて、実践的に学べるよう計画的な学習指導を行う。 <u>（基礎）</u>			
3、学習内容			
【1学期】	(1) レタリング技能検定資格取得への取り組み ・過去問題トレーニング（知識・技術） (2) 伊那谷地域の課題設定（森づくり・担い手不足等・・・） (3) GLコースと連携した、地域活性化に向けたアイデア提案 (4) 木育活動（地域交流・出前授業）→小学校との学習交流会 (5) 生物多様性（水辺デザイン）→地域連携 ・「生きものの里」ホタル再生復活プロジェクト」デザイン～施工までの実践 (6) 間伐材を有効活用したレクリエーションのアイデア（企画）～実践 (中野原農場でのツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ） (7) 地域資源を有効活用（再活用）した「ものづくり」のアイデア・デザインの提案～作品製作・展示会を企画・運営 「和紙・経木」を活用した日本伝統文化技術の習得と発信 (8) 里地里山としての、田園環境の基礎～実践までを学ぶ。 (9) 里山環境再生プロジェクト活動 ・「ホタル Labo 2020」ホタルと暮らす里山づくり（地域連携） ・課題テーマとして、ホタルの生態系 水辺環境整備の研究等～環境整備等	30時間	
【2学期】	(1) 生物多様性（ホタル・イナゴ、水辺デザイン・）→地域連携 (2) 林産物の再活用のアイデア・デザインの提案～作品製作（自由製作）、 ・学んだ内容をものづくりに発展→各イベント会場での展示会、 (3) 自然環境を持続的に保つネイチャーランド計画に向けたデザイン (4) 森を活用したレクリエーションの実践 ・ツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ (5) 知識・技術の実践としてのアウトプット ・地域交流・地域活性化へ繋げる活動・連携を含めた計画の立案	55時間	
【3学期】	(1) 森を活用したレクリエーションの企画（次年度に向けてのアイデア提案） ・中野原農場での身体的、精神的なリラックス効果、日常生活の向上 (2) 林産物の有効活用に向けた「ものづくり」作品展示会・ワークショップ企画 (3) 実践報告のまとめ、発表方法の学習 (4) 交流発表会の実施（県内専門科を置く高校とリモートで意見交換）	20時間	
教科書	使用なし		
副教材	使用なし		

教科「農業」

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	◎	○	20%
実習	◎		◎	30%
レポート	◎	○	○	20%
作品製作	○	◎		30%
評価の重点	具体的な解決のための取り組みの中で、人との対話や自らの気持ちを分かりやすく伝えようとする姿勢が見られるか。			

教科「農業」

科目名	課題研究			単位数	3 単位		
学科名	コミュニティデザイン科里山コース		学 年	3学年	予定時数 105		
1 学習目標							
森づくりについて自らテーマを設定し、探究的な学習を通じ科学的思考力と課題解決能力を育成し、専門科目に関する知識と技術をより深め、各分野で活用するより実践的能力と態度を育てる。							
2 指導の重点							
①より専門性を探究できるテーマの設定 ②課題解決へ向けたより科学的な手段をとることができる ③得られて成果を性格に分析し、他に伝えることができる							
3、学習内容							
【1学期】	1 課題研究の概要 目標と学習の進め方 2 テーマ設定 3 研究の立案と実施 研究調査・製作を立案し実施する			30時間			
【2学期】	4 まとめ 研究調査のデータ処理とまとめ 製作の完成			42時間			
【3学期】	5 レポート・プレゼンテーションの作成 評価・反省、レポート完成・発表			33時間			
教科書							
副教材							

評価規準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	○	◎	20%
提出物		◎	○	30%
研究レポート	○	◎		20%
成果発表	◎	○		30%
評価の重点	<p>【知識・技術】森林・里山環境を中心として、林産物の利活用への関心を高め、森と生活環境との繋がりを意識できたか。</p> <p>基礎的な知識を身に着け、計画を実行に移すことで技術を応用活用できているか。</p> <p>【思考・判断・表現】テーマに基づき、思考を繰り返し、アイデアを形にしていく過程を展開できているか。また、森林の利活用について探究し協働することができたか。</p> <p>【学びに向かう力】森林・里山環境への関心を高め、その重要性を認識し、森と身近な暮らしへの関わりを意識した活動できたか。</p>			

教科「農業」

科目名	総合実習	単位数	3 単位
学科名	コミュニケーションデザイン科里山コース	学 年	3 学年
1 学習目標	里山環境で学んだ技術・知識を生かして、より実践的に学ぶ。また、社会人としての態度や資質を養う。		
2 指導の重点	①あいさつ、返事をしっかりする。実習中の服装や態度を正しく ②基本的生活習慣の確立 ③ものづくりを通して、持続可能な地域づくりを目指す ④実習を通じて協力・助け合いの精神を学ぶ		
3、学習内容			
【1学期】	(1) 木育活動（地域交流・出前授業）→小学校との学習交流会 (2) 生物多様性（水辺デザイン）→地域連携 •「荒廃地」里山計画～施工までの実践 •「生きものの里」ホタル再生復活プロジェクト～施工までの実践 (3) 第2農場を活用したレクリエーションの企画～実践 (中の原農場でのツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ) (4) 地域資源を有効活用（再活用）した「ものづくり」の作品製作・展示会 「和紙・経木」を活用した日本伝統文化技術の習得と地域発信（ワークショップ） (5) 里山環境再生プロジェクト活動 •「ホタル Labo 2020」ホタルと暮らす里山づくり（地域連携、小学生との交流） •課題テーマとして、ホタルの生態系 水辺環境整備等の実践		
【2学期】	(1) 生物多様性（ホタル・イナゴ、水辺デザイン・）→地域連携（外部講師指導） (2) 林産物の再活用の作品製作（自由製作）、 •学んだ内容をものづくりに発展→各イベント会場での展示会（ワークショップ） (3) 自然環境を持続的に保つネイチャーランド計画に向けた施工の実践 (4) 森を活用したレクリエーションの実践 •ツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ等 (5) 知識・技術の実践としてのアウトプット •地域交流・地域活性化へ繋げる活動・連携を含めた企画の実践		
【3学期】	(1) 中野原農場での、日常生活の向上と森を活用したレクリエーションの企画 (2) 林産物の有効活用に向けた「ものづくり」作品展示会・ワークショップ (3) 実践報告のまとめ、発表方法の学習 (4) 交流発表会の実施（県内専門科を置く高校とリモートで意見交換）		
教科書	使用無し		
副教材	使用なし		

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○		○	20%
実習	◎	○	◎	30%
レポート	◎	○	○	20%
作品製作	○	◎		30%
評価の重点	具体的解決のための取り組みの中で、人との対話や自らの気持ちを分かりやすく伝えようとする姿勢見られるか。			

教科「農業」

科目名	森林科学			単位数	3 単位		
学科名	コミュニケーションデザイン科里山コース		学 年	3 学年	予定時数 105		
1 学習目標							
森林の育成と環境の保全についての体験的・探究的な学習を通して森林及び環境に関する学習について、科学的思考力と課題解決能力を育成し、森林及び環境管理に関する実践的な知識・技術を習得させ、各分野で応用できる能力と態度を育てる。							
2 指導の重点							
①森林の基礎的知識と育成する技術に感心を持たせる ②実習を通じて実践的な技術を習得させることで、「主体性」「やる気」を引き出させる ③災害を回避するための実践的な対策を理解させる							
3、学習内容							
【1学期】	1 森林の健全性と維持するための管理技術 (1)森林の整備（森林の機能・森林資源の現状と取り組み） (2)森林の手入れ（植栽・下刈り・間伐・除伐等の作業技術） (3)森林の保全（森林における生物多様性の保全など） 2 森林の利活用 (1)作品づくりを通しての実習 ・木材・専用林産物の活用（木炭、花炭や竹などの新たな用途への活用） ・レクリエーション（モルック・カップの製作～スポーツ体験） ・環境教育（小学生への木育活動）			30時間			
	3 伐木造材実習 (1)チェーンソーの構造と操作、整備（応用） (2)伐木造材の理論 4 林道と作業道 (1)林道と作業道の役割 (2)林道計画と設計 (3)林道の施工と保守管理 (4)作業道計画と設計			42時間			
【3学期】	5 木材の生産 (1)樹木の伐採 ・伐採をめぐる課題、方法 (2)造材と集材 (3)木材の運搬 6 人間社会と森林 (1)森林利用の変換 (2)流域社会と人の暮らし 7 森林・林業の現状と課題			33時間			
	教科書 森林科学						
副教材							

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	◎		○	30%
実習	○	○	◎	30%
小テスト	◎	○	○	40%

教科「農業」

科目名	里山環境	単位数	3 単位
学科名	コミュニティデザイン科里山コース	学 年	3 学年
1 学習目標			
伊那谷地域の課題を設定し、生徒自ら課題をチャンスと捉え、課題解決に向かってチャレンジし、その解決を図る学習を通して、探究心と実践力を養い、課題解決のための能力や自発的、創造的な学習態度を育てるこことで、学校教育目標でもある伊那谷をデザインし、探究学習を推進させるため。			
2 指導の重点			
伊那谷をフィールドとした里山の果たす役割や未来の里山の在り方、自然環境と人の繋がりを探究的に学ぶことで、生徒が「森林と暮らしとのつながり」をコーディネート（橋渡し）できるスキルと、「ものづくり」を通して、持続可能な地域づくりについて、実践的に学べるよう計画的な学習指導を行う。 <u>(応用)</u>			
3、学習内容			
【1学期】	(1) 伊那谷地域の里山環境の実態調査と課題解決に向けた提案 (2) 地域（企業・小学生）との繋がり～地域活性化に向けたアイデアの提案 (3) 木育活動として、地域へのアウトプット →小学校との学習交流会～一般向けワークショップの企画・開催 (4) 生物多様性（里山環境デザイン）→地域連携（ホタル復活プロジェクト） 「荒廃地」の有効活用として、デザイン～施工までの応用実践 (5) 地域資源（間伐材等）を有効活用した「森づくり」への創造として、 アイデアの提案～企画～地域へアウトプット（ワークショップ等企画・運営） 応用実践（モルックの製作～地域交流、ツリークライミング等） (6) 日本伝統文化として、「和紙・経木」を活用した応用技術の習得と地域へ発信 (7) 里地里山としての、田園環境の基礎～実践までを学ぶ。	30時間	
【2学期】	(1) 生物多様性（ホタル・イナゴ、水辺デザイン・）→地域連携（大学・保存会） ホタルの生態系 水辺環境整備の研究等～環境整備等の応用実践 (2) 林産物の再活用のアイデア・デザインの提案～作品製作（応用自由製作）、 地域交流・地域活性化～繋げる活動・連携を含めた計画の立案・実践 学んだ内容をものづくりに発展 → 知識・技術の応用実践（自己評価） (3) 荒廃地を有効活用、自然環境を持続的に保つための計画～環境整備の実践 (4) 森を活用したレクリエーションの実践 ・ツリークライミング、ネイチャーゲーム、フィールドスポーツ	55時間	
【3学期】	(1) 学校間での連携（屋代南）→アイデアの合同企画～PR活動・イベント参加 (2) 校内他コース（動物コース）との連携（合同企画商品企画～PR活動） (3) 実践報告のまとめ、発表方法の学習 (4) 交流発表会の実施（県内専門科を置く高校とリモートで意見交換）	20時間	
教科書	使用なし		
副教材	使用なし		

評価基準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学習姿勢	○	◎	○	20%
実習	◎		◎	30%
レポート	○	○	○	20%
作品製作	◎	◎		30%
評価の重点	具体的な解決のための取り組みの中で、人との対話や自らの気持ちを分かりやすく伝えようとする姿勢見られるか。			

